

研究会名「基礎情報学研究会」

第4回勉強会報告

日時:2013年9月14日(土)14時~17時

場所:一般社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会会議室

参加者:16名

<まとめ>

はじめに講師の三村先生より「IT技術者のウェル・ビーイング」というテーマでアレキシサイミアとIT技術者の職場についての講演があった。ついで三村先生のお話を受けて、西垣先生よりアレキシサイミアに対する基礎情報学的分析が行われた。その後、アレキシサイミア傾向に陥ってしまう状況や理由についての活発な討議が行われた。

<討議メモ>

1. 西垣先生からのアレキシサイミアに対する基礎情報学的分析、指摘およびコメント

(1) アレキシサイミアの人の心的システム

基礎情報学においては基本的に心的システムとあらゆるシステムと構造的にカップリングしている。その人が社会を記述している。心は何なのかというと、心は自らをみることができるというモデル化をする。アレキシサイミアの人が感情認知・言語化に困難があるということはまさに観察者問題と考える。

(2) 三村先生のお話の中で出てきたデパート店員の対応に関する心的システムと上位のコミュニケーションシステム

基礎情報学では、心的システムの上に社会システムが上位にできていると階層的に捉える。話に出たデパートの店員は自分の心の中でスマホのシステムに援助を求めて、より上位のコミュニケーションシステムの作動についての想像力がない。

(3) ITへの過剰適応

対人適応でなくて対IT適応が強いというのがアレキシサイミアの人だと思う。唯一神の考え方あるいは、米国ITとのディープカルチャーの差に関係している。

(4) アレキシサイミアのマネージャ

ITの方に適応しているが、相手の気持ちにそって考えようという習慣を失っている。青年期の経験不足が関連していると思われるが、これは心の意味データベースというものが貧弱であるという風に捉えた。

(5) ユダヤ人の抽象思考

(6) ピープルウェア

(7) P36 HACSによる分析

成果メディアがうまくいかないとき心のはたらきがうまくいかない。なぜアレキシサイミアがでたのかというと、どこの成果メディアが狂っているのか。

2. 会場からの質問とコメント

- (1) 企業のメンタルヘルス上、心の問題をすぐに専門家につなぐ傾向があり、相談を中間的に受ける体制が整備されていない点について
- (2) 情報教育との関連で発生している問題: 高校の教科情報の担当教員の先生方からの状況報告、意見など
- (3) 情報リテラシー上の問題: 育児場面における情報機器と感性が育たないこととの関係、社会的コミュニケーションにおけるアナログとデジタルの情報の違いの認識
- (4) 組織における意味データベース、範列メディア
- (5) 大学など教育機関でのメンタルヘルス上の精神的不応者へ対応の変化

以上